

「カンパニオ！仲間とともに」

- 平成 27 年度岩手県特別支援学校体験記録集 -
第 24 集



「さあ、一緒に行こう」

一関清明支援学校中学部 2 年 北澤裕成・高橋蒼 共同作品

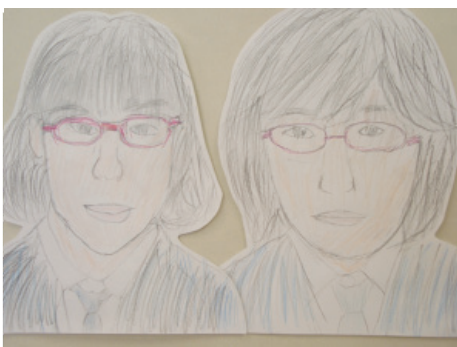
岩手県特別支援学校連絡協議会
[協力] 岩手県特別支援学校 P T A 連合会
[主管] 岩手県立一関清明支援学校

※平成27年度岩手県特別支援学校体験記録集タイトル
「カンパニオ！仲間よともに」について

本記録集の表紙絵、文中の挿絵などは県内特別支援学校へ呼び掛け、応募のあった作品の中から選びました。

タイトルについては、平成25年度に気仙光陵支援学校からの応募、採用されたものを今年度も使わせていただきました。

カンパニオはラテン語で一緒にパンを分け合う人々、つまり仲間という意味で英語companyの語源となった言葉だということです(気仙光陵支援学校より)。



「私とクラスメイト」

盛岡視覚支援 高2 小館知佳

目 次

「発刊に寄せて」
岩手県特別支援学校連絡協議会 会長 東 信之 1

「挨拶」
岩手県特別支援学校 P T A 連合会 会長 斉藤 希美江 2

体 験 記 録

「社会人として、職業人として、そして大人になって、今、僕が思うこと」
岩手県立盛岡青松支援学校 卒業生 波紫 兼也さん 3

「私の夢」
岩手県立盛岡峰南高等支援学校 卒業生 渡邊 佳純さん 5

「息子と歩んできた日々」
岩手県立前沢明峰支援学校 保護者 小野寺 奈保子さん 7

「息子の就職まで」
岩手県立気仙光陵支援学校 卒業生保護者 及川 敏明さん 9

「『特別』の道の先にある幸せ」
岩手県立久慈拓陽支援学校 卒業生保護者 下川原 典子さん 11

編集後記 14

【 資 料 】

岩手県内特別支援学校一覧



「みんなともだち」

盛岡となん支援 小1 湯村 葵

発 刊 に 寄 せ て

岩手県特別支援学校連絡協議会
会 長 東 信 之

本体験記録集も平成4年度から発刊回数を重ね、今年で24回目の発行となりました。平成24年に花巻清風支援学校で行われた啓発推進大会を最後に大会は終了しましたが、長年、多くの方々からご支援、ご共感を得ておりました「体験記録集」は、今後も継続していくこととなり、3年目を迎えました。

私自身、毎年掲載されます特別支援学校卒業生、保護者の方々の作文、文章には、毎回、感動と勇気をいただいております。

保護者の方々が、お子様を特別支援学校に入学させるまでの迷い、葛藤……。児童生徒が、入学してから経験した様々な事柄……。そして家族の絆、担任や関わった先生方との想いや思い出……。

一つ一つの文章に込められた、一人一人の大切な、そして貴重な時間が書かれている「体験記録集」は毎回毎回、かけがえのない一冊となって、現在まで発行され続けています。昨年度からは、県内特別支援学校のホームページ上からもお読みいただけるようになりました。

一昨年6月に「障害者差別禁止法」が成立し、来年の4月から施行されます。「障害者の権利に関する条約」も昨年1月に批准され、2月に効力が発生しました。今まさに「インクルーシブな社会」の実現が望まれ、大きな流れとなって動き出しています。

「就学啓発推進」という、現在では遠くになりつつある活動から生まれた本体験記録集ではありますが、その役割は、『障がいのある人もない人も』お互いを理解する大切な一つのツールとして変化してきています。

ぜひ、多くの方々にお読みいただき、この冊子を『さまざまな障がい』について深く考え、理解、支援していただく一助としていただければ幸いです。



「ペンギンの絵描き歌」

盛岡みたけ支援 小4年 庄司心音

挨拶

岩手県特別支援学校PTA連合会
会長 斉藤 希美江

保護者ならびに関係の皆さま方には、日頃より特別支援学校の教育活動に対しましてご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。特に、去る6月18日に開催されました岩手県特別支援学校PTA連合会総会並びに研究協議会に際しましては、多大なるご協力をいただきありがとうございました。

今年度も、「岩手県特別支援学校体験記録集」を発行する時期になりました。貴重な体験談やメッセージをお寄せいただいた皆さま方、ありがとうございました。毎年発行を楽しみにしている方々も多いのではないのでしょうか。私は、この記録集を読む度に、心が温まり明るい気持ちになります。我が子の将来に対して不安を感じることもありますが、そんな気持ちを希望に変えてくれるような体験の数々に出会うことができます。

特別支援学校を卒業した人たちが、地域社会の中で生きていくことは、私たちの切なる願いのひとつです。障がいのある人もない人も地域社会の中で共にたくましく生きていくことができれば、とても安心です。障がいのある人にとって過ごしやすい社会は、障がいのない人にとっても同様に住みやすい社会だと思います。是非、一人でも多くの方々にこの体験集を手にとりいただき、どの人も安心して暮らせるような環境作りや生活支援等に対する理解が進むことを願います。

最後になりましたが、本記録集の作成にあたり、ご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。これからも、岩手県特別支援学校PTA連合会は、障がいのある幼児児童生徒の教育の充実ならびに生涯にわたる福祉の増進を図るための支援を推進して参ります。今後とも本連合会へのご支援ご協力をお願い申し上げます。



「雨上がりのあじさい」

花巻清風支援 小学部共同作品

「 社会人として、職業人として、そして大人になって、
今、僕が思うこと 」

岩手県立盛岡青松支援学校
卒業生 波 紫 兼 也

僕は、盛岡青松支援学校を卒業し盛岡で生活をしています。実家は葛巻ですが、縁あって（株）盛岡デリカに就職させていただき、主にローソンの弁当を作る仕事をしています。

在学中は、もりおかこども病院から学校へ登校していたので、親元を離れて生活することに抵抗はありませんでした。今は職場近くの下宿に住み、毎日通勤しています。余談ですが、下宿にはジュースサーバーがあり、仕事で疲れた後の一杯は最高です。卒業してから今まで体調を崩すことなく通勤できていることは、僕の自慢の一つです。

仕事の内容を「食品製造」とか「コンビニの弁当をつくる」と一言で言ってしまえば簡単そうに聞こえるかもしれませんが、でも、一つ一つの商品には、おいしく・安心して・たくさんのお客様に満足してもらえるような工夫が込められています。鮮度を生かすために求められる手際の良さやスピード、おいしいチャーハンを作るための焼き加減などいろんなテクニックやコツがあり、よりよいものを作るため毎日がんばっています。大変なこともあります、自分の作った弁当が岩手県内でお客様のもとへ届いているんだと思える、がんばりがいのある仕事です。正直な話、コンビニで自分の作った弁当を見ると「ドヤ〜ッ」という思いがこみ上がってきて、思わずにやけてしまう今日この頃です。

そして、技術以上に会社で大切にしていることは人間関係です。人間関係を大切にすることで、大変な仕事もがんばることができると思います。僕は高校時代、軽音楽部に所属していました。昼休みや放課後に部員の仲間と過ごした日々。みんなであつちの曲の完成を目指し、練習に取り組みました。仕事と部活動は違ふかもしれませんが、でも、いいものを作るという目標にむかっていることは同じだと思ふます。その点で、何かに向かつて協力すること、チームワークを生かすこと、自分の役割を果たすことは、人間関係を作るキーワードだと思ふています。

社会に出て2年が経った今、ぼんやりとだけれど将来の夢が見えてきています。それは、「父のような人になりたい」という夢です。僕の父はあまり多くを語りませんが、僕のよき理解者として見守ってくれています。働きだしたからこそわかる父の気遣いに感謝しています。まあ、結婚できればの話になりますが、僕に子供ができ、その子が今の僕と同じくらいの歳になった時、僕も父と同じように、子供の気持ちを考えて接してあげたいなと思っています。

僕は、昨年20歳になり大人の仲間入りをしました。これからもいろいろなことがあるかもしれないけれど、自分のできることを積み重ねながら、自分のペースでがんばっていきます。



「岩手山・春」

盛岡青松支援 中3 柴田崇裕

「私の夢」

岩手県立盛岡峰南高等支援学校

卒業生 渡 邊 佳 純

私は高校に入学する前から「保育園で仕事がしたい」という夢がありました。

その夢を叶えるために学校生活や寄宿舎生活を頑張ってきました。学校では、流通・サービス科で事務補助やビルメンテナンスの学習をして、働くために必要な技術やマナーを学びました。寄宿舎では、集団での生活で相手への思いやりや気配り、時間を守る大切さを学んできました。

しかし、高校2年生の職場実習では自分のやりたい業種での実習ができず、他の業種で2か所実習をしました。3週間仕事をしましたが、自分には向いていないと思いました。保育園での実習ができなかったので、私の心の中で「保育園での仕事」という夢を一度諦めました。

それから自分が何の仕事をしたいのかよく分からなくなってしまったのと、家庭の事情等が様々重なってしまい、一時期学校に行けなくなってしまいました。でも、3年生の担任や進路担当の先生が頻りに家庭訪問してくださり、たくさん相談や悩んでいることを真剣に聞いてくれ、励ましの言葉をかけてくれました。そのおかげで、私の心のモヤモヤも少なくなってきて、また学校に通うことができるようになりました。

学校に行ってから先生方が将来の生活について親身に考えてくださり、私のやりたかった本宮保育園での職場実習に行けることになり、とてもうれしかったです。自分のやりたかった仕事だったので、一生懸命がんばりました。3週間実習でしたが、保育補助として園児の活動を手伝いました。子どもと一緒に遊ぶことがとても楽しかったです。緊張のせいか3週目で体調を崩してしまい、3日間休んでしまいました。私にはまだまだ体力がないと感じました。実習が終わり学校に戻ってからは、自分の課題である「体力を付ける」ということを目標に体を動かす部活「陸上部」に入り、体力作りをしました。学校の周辺をランニングして体をきたえ、体力を付けました。そして2度目の本宮保育園での職場実習では、自分の憧れの職業に就職できるように、職場の人とコミュニケーションをしっかりとること、体調管理などを目標に一生懸命がんばりました。3週間体調を崩すことなく、実習をやり遂げることができました。2月頃本宮保育園から採用通知が学校に届き、進路の先生から『採用』ということを知り、とてもうれしく、一番心に響きました。これからは学校の先生方や職場の方々の期待にこたえるために一生懸命がんばっていこうと誓いました。

3月25日から勤務開始が決まり、本宮保育園の用務員として働きました。保育園内の掃除や環境整備が私の仕事でした。初めは緊張と不安がいっぱいでしたが、

保育園の先生方に優しく温かく迎えてもらい、私の気持ちも少し落ち着き、仕事をすることができました。実際に仕事をしてみると、「3週間の職場実習とは違い、実際の仕事とはこんなに大変なんだ。」と思い、自分の考えの甘さに気付きました。（もっと楽をしていたいと思いました。）仕事が辛い、大変なので辞めたいと思ったことが何度もありました。しかし、子どもたちがすごくかわいくて、今小さくてもこれから成長して大きくなっていく姿を見届けたいという思いもあり、辞めたいという気持ちもなくなり、また、仕事の大変さも分かり、今ではとても楽しくて仕事を続けていて本当に良かったと思います。就職までお世話をしてくれた学校の先生方に本当に感謝しています。

就職してから3年経ちますが、今でもまだ分からないところ、人にうまく思っていることを伝えることが苦手です。ときどき人に言えなくて立ち止まってしまったりすることがあるので、これから自分の苦手なところもがんばって直していけるように仕事をしていきたいです。

私は、学校にいるときは仕事をするということについて簡単に考えていました。仕事をすることになり、体力的にも気持ち的にも辛くて、もっともっと勉強や気持ちを強く持てるように学校のときに努力をしてきたら良かったな、と今思います。

私はこの3年間、仕事を続け、貯金をしてきました。それは、自動車運転免許を取りたかったからです。今やっと、自動車学校に通えるくらいのお金が貯まっています。免許を取りながらも、貯金をして、自分の乗りたい車を買いたいです。もっともっと貯金して、車を持ってアパートでの一人暮らしが今の私の夢です。



「TRYスポーツ」

岩手大学教育学部附属特別支援

高3 石ヶ森 弘樹

「 息子と歩んできた日々 」

岩手県立前沢明峰支援学校
保護者 小野寺奈保子

息子は、前沢明峰支援学校に通う、肢体不自由児クラスの小学部5年生です。体は大人並みに大きく、好奇心旺盛で人が大好きな笑顔の絶えない、とても元気な明るい子です。

息子の障害が分かったのは、一歳の時でした。寝返り、お座りもできず、おもちゃも握らない息子が心配になり、1歳児検診の時に、お願いをして検査をしてもらいました。結果は、脳性麻痺という診断でした。その後、てんかん、睡眠障害、多動傾向もあることが分かりました。この子は、どこまで成長していけるのか・・・歩けるのか・・・と、先の見えない不安に泣いて辛い日々も沢山ありました。でも、このままでは何も変わらない。全てを受け入れて育てていこうと決め、東京・青森・盛岡・仙台と、いろんな病院へ通ったり、訓練をしたり、本当に必死だったのを覚えています。

1歳過ぎからは、障害のある子や発達ゆっくりな子が通う幼児教室に通い、3歳からは、保育園にも通いました。訓練や療育、幼児教室などで刺激を受け、2歳頃までに、寝返り、お座りができるようになり、3歳で、バランスは不安定でしたが歩けるようになりました。

幼児教室では、座ること、待つこと、見ること、聞くことなどの集団での活動や、指先を使った遊びや、一つの課題を短い時間でも集中して行うこと、マカトンというサインでのコミュニケーション法などを個別で勉強しました。指先を使った、引っ張る、つまむなどの遊びも少しずつできるようになってきました。中でも、マカトンは、話せることを求めている私にとって、コミュニケーションは話すことだけではないんだと気づかせてくれ、重かった心を楽にさせてくれました。息子も伝わる喜びを感じていたようで、「たぬき」「ねこ」「食べる」「ちょうだい」など、好きなことはすぐに覚え、生活の中でも自然に身につけていきました。

うれしい成長と同時に、この頃から多動傾向が目立ち、常に目が離せないことが多くなりました。そして何よりも悩まされたのが、睡眠障害でした。夜は、12時を過ぎると目を覚まし、朝まで眠れず起きている生活が、3歳くらいまで、ほぼ毎日のことでした。夜中も、全く目が離せない状況だったので、本当に大変でした。睡眠の服薬と同時に、保育園に通うようになって、少し改善されていきました。

いろいろな面から息子のことを思い関わってくれた保育園の先生。力の加減が分からず関わる息子に、いつも自然に優しい言葉をかけてくれたり、お手伝いをしてくれた友達。幼児教室で会い、顔を見るだけで元気にさせてくれるお母さんたち。そして、息子や私の気持ちに寄り添って心を癒してくれた幼児教室の先生方。辛い時期も、前向きに頑張ってきたのは、この出逢いがあったからだと思います。

息子と私にとって、とても大きな5年間でした。

そして、支援学校へ入学。入学前は、こんなに体が大きく動きも多い息子が、肢体不自由児クラスで大丈夫だろうかと不安もありましたが、先生方が、細かに配慮や対応して頂いているおかげで、安心して通うことができます。家では、なかなか経験させてあげられないような電車やバスに乗って出掛ける校外学習、宿泊学習。買い物やボウリング、プール、そり遊びなど楽しめる内容や、紙すき、クッキー作り、そば作り、自分たちで野菜を植えたり、収穫した野菜でホットケーキを作ったり、貴重な体験をさせて頂いています。

学校に入学してから、できるようになったことや改善されたことも沢山あります。毎日、体育館やスロープなどの歩行運動のおかげで、歩行がとても安定しました。膝も使うのが苦手でしたが、上手に使えるようになってきました。更に、体を動かすことで睡眠も改善され、朝まで眠れることが多くなりました。排泄も、サインを覚え伝えることでほとんどトイレでできるようになり、オムツを濡らすことがなくなりました。コミュニケーション法のマカトンは、約30種類を越え、自ら、オリジナルのサインを作ることも多くなり、人と関わることの楽しさを感じているようです。そしてあんなに待つことが苦手だった息子が、順番や待つことも少しずつですができるようになってきて、とても嬉しく感じています。行事でも、息子の生き生きとした姿を見るたびに感動しています。いつも、息子の気持ちを尊重し成長も考えて関わって頂いている先生方に感謝し、本当に、この学校を選んで良かったと心から思います。

まだまだ悩みや課題はありますが、将来、少しでも自分でできることを増やしていけるように、学校と連携しながらサポートしていきたいと思っています。

今日の今まで、沢山の人の出逢い、支えられていることを、本当に幸せに感じています。そして、小さな成長の喜びを、こんなにも大きな喜びに変えてくれ、いつも大きな笑顔で私を支えてきてくれた息子にも感謝をしています。これからもいろんなことがあると思います。息子に障害がなかったら出逢わなかった人たち。出逢いを大切に、沢山の人の支えられながら、長い子育てを、息子と歩んでいきたいと思っています。



「ソーラン ソーラン」

前沢明峰支援 中2 伊藤百合

「 息子の就職まで 」

岩手県立気仙光陵支援学校
卒業生保護者 及川 敏明

この春、息子は気仙光陵支援学校を卒業して、市内の電子部品組み立ての会社に就職しました。息子の就職先は、私の通勤経路上から1キロ位脇道に入ったところにありましたが、最近になってバス停近くに新しく工場ができましたので、息子の希望で朝はバス通勤、帰りは私の車に乗って帰ってきます。

息子が小さい頃のことです。二歳の時に言葉が遅い事に気づき、三歳の頃に地区の児童相談員の方に相談したところ、障がいがあるのではないかと告げられ、その頃から地区の小学校の言葉の教室にも通い始めました。またこの間、一関の病院に通ったところ、小児自閉症と診断ができました。そして、小学校に入学するに当たり地区の小学校も考えてみましたが、地区の小学校は受け入れに対して消極的ではないかと感じたこと、支援学校を見学してみて息子自身が受け入れたことや、多くの人に相談した結果、支援学校に進むことにしました。

入学前から息子にはこだわりがいくつかありました。その一つにバンダナをいつも頭に巻くことです。私たちが注意しても外さなかったのに、入学式の前に担任の阿部先生が話したところ、理解したのかすぐに外したときは驚きました。小学部に入って連絡帳が妻と担任の阿部先生で始まり、1年間で2冊ちょっとになりました。その初日を書いてみます。

4月8日（登校初日）先生から「朝ちょっぴり不安だったのか、着がえが進みませんでした。と同時に『おなかがすいた』と訴えていました。初めは本当にすいたのかと思いましたが、どうやらその場から逃げたかったようです。ボールプールで遊んだり、身体測定をしました。昼はスパゲッティをよく食べました。」妻からは、「着がえは口で言ってもなかなか自分で着ようとはせず、私がいつも手伝っています。『おなかがすいた』は、先生の言うとおりです。初めは『おなかがすいた』からはじまり。『おしっこ』や『うんち』など話すときもありますので、お願いします。帰ってからも『学校、行ってきた』と言っておりました。昨日の緊張からもとけて、ホッとした様子できっと楽しかったんだと思います。これから1年間よろしくお願いします。」とありました。大人以上に本人ももっと緊張していたと思います。また、少しずつ慣れてきたようでお昼もよく食べて、学校に行ってきたと話したと書かれてあり楽しかったんだと私も思いました。

それから、息子の怖いことの一つに非常ベルがあります。4月25日「避難訓練」がありました。幼稚園でも経験があると思いましたが、非常ベルが鳴ると急に真っ青になり、『おしっこでる』『おなかがへった』と言った不安な時にでる言葉を連発していました。少し引きずりましたが、4時間目には楽しそうにしていました。

このときは、事前に話していなかったため、息子を不安にさせてしまいました。実は、同様なことが以前の幼稚園でありました。そのときは、クリスマスのイベント

の時で、皆で遊んでいたとき、突然部屋の照明を消してサンタさんがやってきたのですが、他の子供たちはびっくりしていたみたいでしたが、息子は突然暗くなったことでパニックになり泣いていたそうです。それが原因かはっきりと分かりませんが、その後から登園拒否になり、卒園式にも園の前までは行きましたが、残念ながら園内には入れず、卒園式には私一人が出席し、息子の代わりに卒園証書を受けとってきたことがありました。その6年後、支援学校の小学部の卒業式後に、その当時の担任の先生を訪問したときは、本人のわだかまりはもう解けていたようで幼稚園の中に入って卒業証書を見せました。先生も気にしていたみたいで息子がきてくれたことをとても喜んでくれました。

こうして、学校生活を卒業するまで何事もなく過ぎてほしかったのですが、4年前にあの震災が起きました。支援学校は高台にあるので被害は少なかったのですが、残念なことに生徒と生徒・職員の家族に悲しい出来事がありました。震災で多くの人の生活が一変しました。私自身も大きく変わり、仕事は通常業務から復興業務に変わり、震災直後から一ヶ月間は捜索と交通路の復旧で、その後11月の中旬まで被災地内の一地区を担当し、片付け作業（がれき撤去）の現場を取り仕切る仕事につきました。毎日、朝早くから夕方まで被災地内で、行政と地域住民と公民館との連絡を取ったり、時には個人に立ち会いを求めて作業する土木業者に指示を出し、そして夕方には職場に戻り、他の地区の担当者とともに会議を毎日行いました。進行状況の報告と現場の問題点など、ともに考えたり指示をあおいだりしました。そのため、帰りはいつも夜遅くで息子たちは眠っていました。直後の頃は息子たちとの会話も少なかったと思います。

震災の年から3年間、支援学校のPTA会長を務めさせていただきました。

子供たちに常に、笑顔で楽しい学校生活を送っていただきたいと思い続けていました。

息子の学校生活最後の年は、担任の先生と進路指導の先生の指導と多くの先生の応援のおかげで、2回の現場実習と夏・冬休みの実習を行い、息子は支援学校を卒業して、一般就労として就職できたことがとてもうれしく思います。

校長先生をはじめ、12年間ご指導やお声をかけてくださった先生方に感謝申し上げます。そして、これから巣立ってゆく子供たちにも変わらぬご指導とご尽力をお願いします。



「龍・りゅう」

気仙光陵支援 高2

「 『特別』 の道の先にある幸せ 」

岩手県立久慈拓陽支援学校
卒業生保護者 下川原 典子

早朝、家族がまだまどろみの中、一日の始まりの合図の音は、息子、亮の開ける引き戸の音。目覚まし時計とは無縁の体内時計で寸分も狂わずに彼の夜が明け、時間とともに「はたらく人」になっていく身支度を眺めながら、この子なりの生き方で良い、障がいを持ちながら「生きていく」事は不幸せな事ではないと、今日の日も頑張ろうという気持ちを家族に与えてくれます。

この春、息子は12年間の学校生活を終え、久慈拓陽支援学校を卒業し現在は就労継続支援事業所に通い始めました。毎朝、後ろ手を振りながら送迎車に乗り込む時、すでに気持ちが家には無い事が分るほどの潔さ、そんな息子を眺めながら16年前のある光景を思い出します。

普通って何？特に変わってないこと。普通じゃないって何？普通の反対って何？「特別」他と違うこと。「自閉症」障害告知を受けたのは息子が2歳半の時です。3歳までの半年間だけ、いずれは学区と呼ばれる地域の保育園で普通という園生活を送りました。

誰も何も悪い訳ではないと分ってはいても普通というカテゴリーの舞台から降りたら二度とそこには上がれない、そんな不安を捨てたのは一枚の写真でした。年少修了式の合同写真の中に、息子は先生のお膝の上から落ちそうになりながら泣き顔で納まっていた。それを見た時、私の中の何かが違う、そう気づきました。この子にとってどうしてあげる事が一番よいのかを探し始めてから間もなくして、青森県の障害児通園施設に辿りつきました。毎日往復76キロ、これは自宅からスクールバスの発着所までの距離で息子はそこから更に八戸市内を1時間程巡回して園に向うのですから自宅から通園することを決断するまでには覚悟が要りました。それでも行くとした時にはこの子に「生きる力」をと家族で息子を支えると決めた事を思い出します。

スクールバスに初めて乗せた日の朝、まるで今生の別れで、もう2度と会えないように泣く息子を見送った時、つられて号泣してしまった未熟な私に添乗の先生は「お母さん、何時か必ず良かったと思う日が絶対来るから今日の日を乗り越えなさい。」と励ましてくれました。バスを見送った後、同じ発着所から子どもを乗せたお母さん方が私を慰めながら励ましてくれた事を今でも忘れません。

今になって思えば、何時か私と同じ境遇の人がいたら役に立ちたいと思った事が拓陽でのPTA活動の原点だったように思います。

息子も園生活の中でたくさんの生活スキルを身につけ就学に向けて頑張っていた卒園前の秋の終わり頃、就学時健診の知らせが届きました。この頃には息子とどう歩いていくか心が決まっていたから普通小学校、普通学級は私の選択肢には有りませんでした。久慈養護学校への入学を希望していても学区の小学校で就学時健診を受けるようにと言われ息子にとっては辛い1日となるであろうとの予想に反して、落ち着いていたのには驚いたものです。

検査が終わり入学に関する説明会には参加せずに他の親子より先に帰る事を許され学校を後にしました。春には桜が満開になるであろう校舎から校門までの数百メートルの道は枯れ木が並んでいて、息子の手を引きながら校舎を背にして歩きながらこの子ともう此処へ来ることはないだろうと思ったら、寂しさから本当にこれで良かったのだろうかと後にも先にもこの時ただ一度だけ迷ったものです。

息子は翌日からまた元気に通園を始め、春に久慈養護に入学するのを楽しみに過していました。

卒園までの3年と9ヶ月の間の通園日数789日、毎日往復76キロ、59,964キロの通園の旅を終え3月に卒園となりました。当時、話し言葉を何一つ持たない子でしたが、先生方がひらがなの拾い読みを教えてくださいました。卒園式の日マイクを持って「お・か・あ・さ・ん」と呼んでもらえた時、これがご褒美だと思いました。

4月、久慈養護学校入学。「此処に来るしかなかった」ではなく、「此処を選んで来た」のだという強い気持ちがありました。それは卒業までの12年間、持ち続けた信念です。そしてそれは一度も揺らぐ事のない素晴らしいところでした。小学部ではきめ細やかに指導していただいて充実した学校生活を送りました。母の高望みと思っていた事を息子は一つ一つずつ叶えて力をつけていきました。

物事のすべてを教わらなければ出来るようにはならない、何度も繰り返さなければ習得していけないとしたら、どれだけの年月を必要とするのだろうと不安に思った時もありましたが、先生方に支えて頂きながら、中学部の作業学習などを経て高等部へ入学しました。入学と同時に寄宿舎に入舎。舎での生活で学んだ事の大きさは卒業後の今こそ実感できます。それは12年間の学校生活のすべてであるとも言えます。そこに在るときは気づけない事が今になって良く分ります。

息子が小学部2年生修了の日先生から頂いた学級通信に宮沢賢治の「虔十公園林」のお話しになぞらえて書かれたメッセージがありました。その時には理解しき

れなかったものも、今であればこれこそがそうなのだと思います。育まれるとはそういう事のような気がします。学校で学んだことも、働く事も、休日を楽しく過す事も息子にとっては「生きていく」という事です。入学した頃は何も話せなかった子が「お仕事に行ってきます。頑張ります。」と言い、工賃支給日に「お金もらってきました。頑張りました。」と嬉しそうな笑顔でちょっと誇らしげでした。初めていただいた工賃の袋から千円を一枚引き出し弟に差し出した時、弟は戸惑いながら「ありがとう」と言いました。「どういたしまして」と答えた言葉は、もう幼いころのひらがなのひろい読みではありません。心ある言葉が話せるまでに関わってくださったすべての人からいただいたかけがえのない「生きる力」です。

普通ではなく「特別」の道を歩む事を選んだ私についてきた息子でした。どのあたりからでしょう、気がつくと私の方が後ろを歩いていました。何処で何をしてもそこであなたが幸せだと思えるものが見つけられたら良い。今は心からそう思います。

作業所の送迎車のドアが開き、ステップに足を掛けて乗り込む息子の後姿を見るときに、あの日のスクールのバスの先生の言葉を思い出します。

「お母さん、何時か必ず良かったと思う日が絶対来るから今日の日を乗り越えなさい。」

息子を育ててくれたすべての出来事とすべての出逢いにこころより感謝します。



「トライスポーツ」

久慈拓陽支援 高2 谷地杏介

【 資料 】

岩手県内特別支援学校一覧



「 夏 」

釜石祥雲支援 中2 れいじ

岩手県内特別支援学校一覧（平成27年4月1日現在）

○：設置学部等

	対象障がい	住 所	電話/FAX	幼	小	中	高	専 門	訪 問	舎
1	盛岡視覚支援学校	〒020-0061 盛岡市北山1-10-1	(019)624-2986 F 624-3164	○	○	○	○	○	-	○
2	盛岡聴覚支援学校	〒020-0403 盛岡市乙部4-78-2	(019)696-2582 F 696-5952	○	○	○	○	○	-	○
3	盛岡となん支援学校 分教室（県立療育センター内） 施設訪問（みちのく療育園・瑞雲荘）	〒020-0401 盛岡市手代森6-10-14 〒020-0401 盛岡市手代森6-10-6	(019)623-3907 F 623-3918 (019)652-3637 F 652-3637	-	○	○	○	-	○	○
4	盛岡青松支援学校 もりおかこども分教室（もりおかこども病院内）	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷11-25	(019)661-5125 F 661-5170	-	○	○	○	-	○	-
5	盛岡峰南高等支援学校	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-152	(019)639-8515 F 639-8517	-	-	-	○	-	-	○
6	盛岡みたけ支援学校 高等部校舎 二戸分教室小学部（石切所小学校内） 二戸分教室中学部（福岡中学校内）	〒020-0633 滝沢市穴口218-4 〒020-0133 盛岡市青山1-25-29 〒028-6103 二戸市石切所字田尻平4 〒028-6101 二戸市福岡字川又22-1	(019)641-0789 F 641-8040 (019)645-2188 F 645-7301 (0195)23-9633 F 23-9633 (0195)23-5507 F 23-5507	-	○	○	-	-	○	-
7	盛岡みたけ支援学校奥中学校	〒028-5134 一戸町奥中山字西田子1054-1	(0195)35-3036 F 35-3036	-	○	○	-	-	○	-
8	花巻清風支援学校 北上分教室（県立中部病院内） 遠野分教室小学部（遠野小学校内） 遠野分教室中学部（遠野中学校内）	〒025-0037 花巻市太田27-207-4 〒024-8507 北上市村崎野17-10 〒028-0515 遠野市東鏡町11-28 〒028-0541 遠野市松崎町白岩11-30	(0198)28-2421 F 28-2089 (0197)68-2091 F 68-2091 (0198)62-3351 F 62-3351 (0198)62-2211 F 62-2239	-	○	○	○	-	○	○
9	前次明峰支援学校	〒029-4208 奥州市前沢区字田島18-1	(0197)56-6707 F 56-5967	-	○	○	○	-	○	○

	学 校 名	対 象 障 がい	住 所	電 話 / FAX	幼	小	中	高	専	訪 問	舎
	いちのせきせいめんがっこう 一関清明支援学校 本校舎	聴覚・病弱 知的 肢体不自由	〒021-0041 一関市赤荻字上台96-5	(0191)33-1600 F 33-1601	○ 聴	○	○	○	-	-	-
	やまのめがっこう 山目校舎	病弱・知的 肢体不自由	〒021-0056 一関市山目字泥田山下48-12	(0191)25-3210 F 25-2770	-	○	○	-	-	○	-
10	あすなろ分教室 （独立法人国立病院機構岩手病院内）	病弱									
	せんまやぶなまきしょうじつしゅうがくがくぶせんまやしょうがっこう 千厩分教室 小学部（千厩小学校内）	知的	〒029-0803 一関市千厩町千厩字北方105-1	(0191)53-2275 F 53-2275	-	○	-	-	-	-	-
	せんまやぶなまきしょうじつちゅうがくがくぶせんまやちゅうがっこう 千厩分教室 中学部（千厩中学校内）	知的	〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場 195-5	(0191)53-3181 F 53-3181	-	-	○	-	-	-	-
11	げせんこうりょうしゅうしせんがっこう 気仙光陵支援学校	知的 肢体不自由	〒022-0006 大船渡市立根町字宮田33-3	(0192)27-8500 F 27-8501	-	○	○	○	-	○	○
	かまいししゅうしせんがっこう 釜石祥雲支援学校	病弱、知的 肢体不自由	〒026-0053 釜石市甲子町10-614-1	(0193)25-3035 F 23-3036	-	○	○	○	-	○	-
12	こうとうぶがっこう 高等部校舎（釜石高校内）										
	しゃくなげ分教室 （独立法人国立病院機構釜石病院内）	病弱	〒026-0053 釜石市定内町4-9-5	(0193)23-0663 F 23-0679	-	○	○	○	-	-	-
13	みやこ恵風支援学校	知的 肢体不自由	〒027-0097 宮古市崎山5-88	(0193)63-0400 F 64-3617	-	○	○	○	-	○	-
14	くじたくようしせんがっこう 久慈拓陽支援学校	知的 肢体不自由	〒028-7801 久慈市侍浜町堀切10-56-46	(0194)58-3004 F 58-3660	-	○	○	○	-	○	○
15	いわてだいがくきょういこうがくぶせんとくべつしえんがっこう 岩手大学教育学部附属特別支援学校	知的	〒020-0824 盛岡市東安庭3-4-20	(019)651-9002 F 622-3822	幼 児 教 室	○	○	○	-	-	-
16	がっこうほうじん 学校法人カナン学園 三愛学舎	知的	〒028-5133 一戸町中山字軽井沢49-33	(0195)35-2231 F 35-2781	-	-	-	○	○	-	-

相談を希望される方のために！お子様の療育や就学、将来の進路等の相談に応じます。いつでもご連絡ください。

岩手県教育委員会事務局	学校教育室	特別支援教育担当	019-629-6143(直通)
岩手県立総合教育センター	教育支援相談担当		0198-27-2473(コストア・イノベーション電話相談)
岩手県福祉総合相談センター	児童女性部児童相談課		019-629-9604 9605
岩手県宮古児童相談所			0193-62-4059
岩手県一関児童相談所			0191-21-0560
岩手県立療育センター内	岩手県発達障がい者支援センター		019-601-2115

【編集後記】

平成27年度岩手県特別支援学校体験記録集第24集の発刊をすることができました。

卒業生、保護者の皆様から寄稿、各支援学校からの作品の提供をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

卒業生の皆様からの在学中の様子と「今」の思いや明日への「夢」。叶うことのできる夢に向かっている力強さ。保護者の皆様の「子育て」に向かう心の強さを感じ取ることができました。この「体験記録集」を特別支援教育に係わる仲間たちの「声」として、一人でも多くの皆様の目に触れ、読んでいただき理解を深めていただきたいと思います。今年度事務局としての取り組みを工夫してきました。

体験記録集の発刊にあたり、長年にわたり物心両面からご支援いただいております、日本教育公務員弘済会岩手支部様並びにいわてひまわり号基金様にも心から御礼申し上げます。

これからも体験記録集が多くの皆様にお読みいただき、「共に学び、共に育ち」そして「共に生きる」社会づくりの一助になりますよう祈念し皆様へのご挨拶といたします。

体験記録集発行事務局
岩手県立一関清明支援学校
校長 菅原敬子



「あじさいとかたつむり」
宮古恵風支援 小4 攝待皓士

「カンパニオ！仲間よともに」

－平成27年度岩手県立特別支援学校体験記録集－ 第24集

発行 平成27年11月2日
発行者 岩手県特別支援学校連絡協議会
会長 東 信 之（岩手県立盛岡視覚支援学校長）
〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目10番1号
TEL 019-624-2986
編集 岩手県立一関清明支援学校
校長 菅原敬子 他発刊事務局職員一同
〒021-0041 岩手県一関市赤萩字上台96番5
TEL 0191-33-1600
協賛 公益財団法人 日本教育公務員弘済会岩手支部
いわてひまわり号基金
印刷・製本 一関ワークキャンパス



「秋桜」

三愛学舎 専1 中村美香



「 墨のうた 」

盛岡聴覚支援 小6 中村輝月